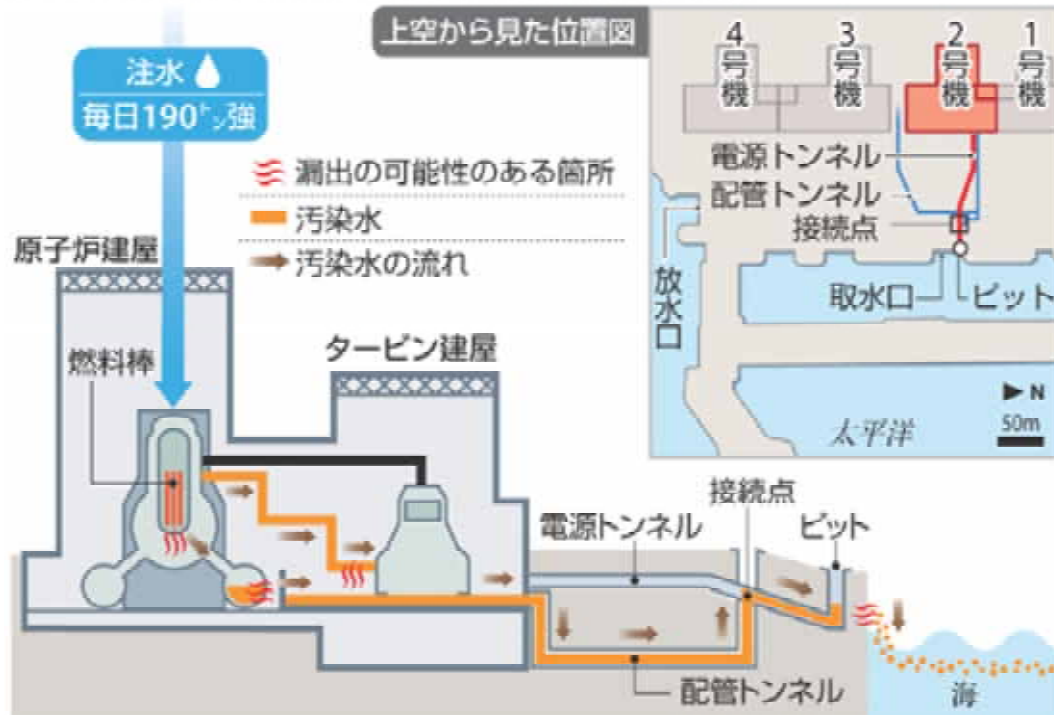


れ出したことにより、海洋汚染という国際問題を提起してしまったのです。

具体的に放出された放射性物質の時間的経過を辿ると、第一原発の正門に設置されているガイガ - カウンタ - は、3月12日午前4時までは正常値である  $0.07 \mu\text{Sv}$  であったが、

### 福島第1原発2号機の汚染水の流れ(想定図)



同日午前4時30分、 $0.59 \mu\text{Sv}$ 、午前4時40分  $5.1 \mu\text{Sv}$  と急上昇。

12日午後3時36分、1号機爆発、火災は視認できない透明な爆発（水素爆発）と同時に地面を這うように白煙が広がった。政府は12日午後6時25分、半径20km圏内の住民に圏外への避難を指示した。

14日午前11時01分、3号機で1瞬透明な爆発（水素爆発）直後、燃料プール付近で1瞬赤い炎が発生し、爆発煙が上がった（保管燃料由来の水素爆発と発表された）。

15日の午前10時22分には線量が最大になり  $400\text{mSv}$  を計測した。従って3号機の爆発で大量の放射性物質の放出があったものと推測される。

15日午前6時10分、2号機でも爆発音があがが建屋は破壊されなかった。これは水素爆発の被害を防ぐため、事前に建屋に穴を空けておいたのが功を奏した。

圧力抑制プールは圧力が3気圧から1気圧に低下したので損傷した。ほぼ同時刻に4号機も爆発があり、更に4号機では15日、16日に火災が発生した。

政府は15日午前11時06分、半径30km圏内の住民に屋内退避を指示した。

16日以降は、放射線量の上昇はなく、5月2日午後9時の第一原発正門付近では  $45 \mu\text{Sv}$  と減少した。

従って放射性物質の放射は3月15日までが大量放出で、その後の放出がゼロではないが少量または微量に留まっていると推測される。

ところが循環冷却水が停止したために、崩壊熱冷却のために決死の放水作業を行い、大量の放水により、汚染されて水が地下に流れ込んだ。